

「ボージプリー文化圏の婚姻儀礼と民俗歌謡（その3）」

八 木 祐 子

1. はじめに

本稿は、筆者が、2018年に、北インド、ウッタール・プラデーシュ（Uttar Pradesh）州東部のアザムガル（Azamgarh）県で調査をおこない、婚姻儀礼のさいに収集した民俗歌謡の事例報告の続編である。調査地域はボージプリー（Bhojpurī）というヒンディー語の東部方言を話す地域に属し、様々な民俗歌謡がうたわれる地域として知られている〔八木 1990〕。調査地域において、婚姻儀礼は、シャーディー（Śādī）、ゴウナー（Gaunā）、ドーゲー（Doge）の3段階にわたっておこなわれる。そのなかでも最も主要なシャーディーについて記述する。これらの様々な儀礼ごとに、婚姻儀礼の民俗歌謡（Vivāh Kā Gīt）が、主に既婚女性たちによってうたわれる。1日目～6日目は、花嫁、花婿双方の家で儀礼がおこなわれる。前々号の「ボージプリー文化圏の婚姻儀礼と民俗歌謡（その1）」で、婚姻儀礼の概要と1日目のウルド・チャーワル・チャンナー儀礼の民俗歌謡について報告〔八木 2020〕し、前号の「ボージプリー文化圏の婚姻儀礼と民俗歌謡（その2）」で、4日目のウルド・カー・ドイヤー・ドーナー、及び5日目のマンダップ・ウタルナーのさいにうたわれる民俗歌謡について報告した〔八木 2021b〕。今回は、6日目の民俗歌謡について、報告する。当該地域の先行研究や婚姻儀礼の詳しい過程、社会変化については、別稿を参照していただきたい〔八木 1990, 1991, 1992, 1999, 2010, 2015, 2021a〕。なお、とりあげる民俗歌謡の事例は、前々回、前回に続いているので、番号は前回の続きとする。

なお、本研究は、文部科学省の科学研究費基盤研究C「北インド、ボージプリー文化圏の民謡に関するジェンダー分析」（課題番号17K02032）の助成を受けており、本報告は、その成果報告の一部である。

2. 1日目の民俗歌謡

(1)～(3)については、前々回、報告しているので、ここでは省略する。

3. 4日目の民俗歌謡

(1)については、前回、報告しているので、ここでは省略する。

4. 5日目の民俗歌謡

(1)については、前回、報告しているので、ここでは省略する。

5. 6 日目の民俗歌謡

6 日目は、マツマンガラ (matmaṅgala、マツは「土」、マンガラは「吉兆」を意味) の日とよばれ、7 日目におこなわれるビヤーフ (biyāh) の準備に関わる一連の儀礼が、花嫁・花婿双方の家でおこなわれる。この日は、婚姻の成功を祈ったり、祖先を招待する儀礼が中心におこなわれる。

まず、司祭が、婚姻が無事におこなわれるように願い、カンガー (kaṅghā) というお守りの日、花嫁あるいは花婿の右手首に巻く。ナーイー・カーストの女性、ナウンがマンダップ (maṇḍap) という結婚式場を、牛フンで清め、吉兆な文様を描く。

(1) カルヤーン・プージャー

カルヤーン・プージャー (kalyān pūjā) は、司祭が結婚の成功を祈願する礼拝である。司祭が礼拝をしているその横で、女性たちが事例18のような民謡をうたう。

(事例18)

धन्य एही जगहिया कै भाग हो जहाँ होले हवनिया।
हमरे हवन मे राम जी आए सथवा मे सीता रनियवा हो।
धन्य धन्य एही जगहिया कै भाग हो जहाँ होले हवनिया।
हमरे हवन मे विष्णू जी आए सथवा मे लक्ष्मी रनियवा हो जहाँ होले हवनिया।
धन्य धन्य एही जगहिया कै भाग हो जहाँ होले हवनिया।
हमरे हवन मे शंकर जी आए सथवा मे पार्वती रनियवा हो जहाँ होले हवनिया।
धन्य धन्य एही जगहिया कै भाग हो जहाँ होले हवनिया ।

dhanya ehī jagahiyā kai bhāg ho jahāñ hole havaniyā.
hamare havan me Rām jī āe sathavā me Sītā raniyavā ho.
dhanya dhanya ehī jagahiyā kai bhāg ho jahāñ hole havaniyā.
hamare havan me Vishnu jī āe sathavā me Laxmī raniyavā ho jahāñ hole havaniyā.
dhanya dhanya ehī jagahiyā kai bhāg ho jahāñ hole havaniyā.
hamare havan me Shankar jī āe sathavā me Pārvatī raniyavā ho jahāñ hole havaniyā.
dhanya dhaniya ehī jagahiyā kai bhāg ho jahāñ hole havaniyā.

ホーム (護摩) をするところがあります。その場所でホームがおこなわれます (とても素晴らしい)。
私のホームに、ラーマ・ジーがやって来ました。一緒に、シーター姫もやって来ました。
ホームをするところがあります。その場所でホームがおこなわれます (とても素晴らしい)。
私のホームに、ヴィシュヌ・ジーがやって来ました。一緒に、ラクシュミー姫もやって来ました。
ホームをするところがあります。その場所でホームがおこなわれます (とても素晴らしい)。
私のホームに、シャンカル・ジーがやって来ました。一緒に、パールヴァティー姫もやって来ました。

ホームをすることがあります。その場所でホームがおこなわれます（とても素晴らしい）。

(2) ハリス・ガーダナー

結婚式場の真ん中に穴を掘り、5人の親族が鋤（ハリス）をたてる。この鋤は、結婚の柱と呼ばれ、ナウンがウコンと牛糞を塗って、浄化する。そのさいに、既婚女性が儀礼場をつくる過程をうたう。

この後、様々な儀礼や民謡のなかで、5人や5回など、数字の「5」が登場する。ヒンドゥー教では奇数が吉兆とされ、とくに「5」はおめでたい数字であり、婚姻儀礼において多用される。

今回の婚姻儀礼では、ハリス・ガーダナーと並行して、次のカラーシュ・ゴータナーがおこなわれており、そちらの方に近所の女性が集まっていたので、ハリス・ガーダナーの民謡はうたわれなかった。

(3) カラーシュ・ゴータナー

鋤の横には、ガンジス川の聖水やウコンを入れ、5枚のマンゴーの葉で蓋をしたカラーシュ（kalash）あるいはカラサー（kalasā）と呼ばれる土の壺を置く。マンゴーも、吉兆なものと言われている。この壺に、女性たちが事例19や事例20の歌をうたいながら、牛糞、コメ、オオムギをつける。この壺は、非常に吉なる壺と言われている。事例19の民謡の冒頭に、6万ルピー（1ルピーは、2018年時点で、約1.6円）という歌詞がでてくるが、1990年代にも同様な民謡があり、そのときは、もっと安く数千ルピーであった。

(事例19)

बोला बहिनी काव लेबू कलसा भराई जी।
साड़ी लेबै साया लेबै ब्लाउस के सेट लगाई जी।
साठ सौ रूपइया लेबै कलसा भराई जी।
शहरे से भाइया अइनै टिकट कटाई जी
बोला बहिनी काव लेबू कलसा भराई जी।

bolā bahinī kāv lebū kalasā bharāī jī.
sāḍī lebai sāyā lebai blāus kai seṭ lagāī jī.
sātha sau rupaiyā lebai kalasā bharāī jī.
shahare se bhaiyā ainai ṭikaṭ kaṭāī jī.
bolā bahinī kāv lebū kalasā bharāī jī.

言ってください、バヒニー（姉妹）よ。何をもっていきたいですか。カラサーをつくるのに。
サリーをもっていきたいです。サヤーをもっていきたいです。ブラウスのセットをもっていきたいです。
6万ルピーをもっていきたいです。カラサーをつくるのに。

街からバイヤー（兄弟）が来ました、チケットを買って。
言ってください、バヒニーよ。何をもっていきたいですか。カラサーをつくるのに。

（事例20）

अरे तेहि चढि चितवै बीरन भइया बहिनिया हमरी आवै।
घन आवति बाटी बाबा कै दुलारी गरभ जिनि बोल्यो।
धन बैठा तू हमरे मइउवा कलसा हमरा गोठा।
भाउजी कलसा गोठउनी काव देबू कलसा तुहरा गोठब।
तुहै देबो हाथे कै मुनारिया भयनवा हाथे तोड़ ।

are tehi chaḍhi chitavai bīran bhaiyā bahiniyā hamarī āvai.
dhan āvati bāṭī bābā ke dulārī garabh jini bolyā.
dhan baiṭhā tū hamare maḍauvā kalasā hamarā goṭhā.
bhāujī kalasā goṭhaunī kāv debū kalasā tuharā goṭhab.
tuhai debo hāthe kai munāriyā bhayanavā hāthe toḍa.

アレ、そこから上に登って見たら、ビーランバイヤー（兄弟）、バヒニー（姉妹）が、私のところに（婚姻儀礼のために）来ました。

ダン（妻）よ、やって来ました、バーバー（祖父）のドゥラリー（娘）が怒っているの、（何も）話さないでください。

ダンよ、あなたは座って、私の結婚式場のカラサーに、ゴーター（牛フンをつけて浄化する）をしてください。

バーウジー（嫁）よ。カラサーにゴーターをしたら、何をくれますか。あなたのカラサーにゴーターをしたら。

あなたにあげます、手にムナリ（指輪）を。バヤナワー（義理の姉妹の息子）には、腕に銀の腕輪を。

（4）クトナー

既婚女性5人が、杵でコメを突いて、祖先の食事をつくり、婚姻儀礼に招待する。このとき、父方の3代前からの祖先の名前を入れてうたう。クトナーや次のチューリー・ネオターは不慮の事故や天寿をまっとうせず亡くなった祖先たちを、悪さをしないように婚姻儀礼にあらかじめ招待するものである。

（5）チューリー・ネオター

既婚女性5人が、突いた米を、左回りに5回まわりながら、マンダップの東西南北に置く4つの壺に、コメを入れる。このとき、父方の3代前からの祖先の名前を入れてうたう。

事例21と事例22は、クトナーとチューリー・ネオターのさいにうたわれる。ネオターは、花嫁や

花婿、その家族に、お祝いのお金や品々をあげて、祝福することである。

(事例21)

नौ मन कै लेजुरी अमाय रे मानोरथा।
कवने राम कै ओखरी कवने राम कै मूसर।
नौ मन कै लेजुरी अमाय रे मानोरथा।
इसरदेई कै ओखरी फलने राम कै मूसर।
नौ मन कै लेजुरी अमाय रे मानोरथा।
इसरल बिसरल आग कै जरल पानी कै बुढल किरा कै कटल।
और केहू होई तौ ओनहू कै नेवता।

nau man kai lejurī amāi re mānorathā.
kavane rām kai okharī kavane rām kai mūsar.
nau man kai lejurī amāi re mānorathā.
Isardei kai okharī falane rām kai mūsar.
nau man kai lejurī amāi re mānoathā.
Isaral bisaral āg kai jaral pānī kai burhal kirā kai kāṭal.
aur kehū hoi tau onahū kai nevatā.

9 マン（1 マンは約40キロ）のレジュリー（井戸の水を壺でひきあげるときのロープ）が来ました。

どこのラーマのオカリー（臼）ですか、どこのラームのムーサル（杵）ですか。

9 マンのレジュリーが来ました。

イサルデイ（花嫁の祖母の名前）のオカリーです。誰かのムーサルです。

9 マンのレジュリーが来ました。

忘れてしまった人、火で焼けた人、水でおぼれた人、へびにかまれた人、

そして、誰か、みんなすべてを招待します。

(事例22)

अरे पापा हमरे दिहै हरदीया तौ भैया मोर बोलावै।
बहिनी हमरे नेवते तूही आया।
केके मै सौंपों मै अन्धन भइया।
केके सौपो हाथी महावत नेवते तोहरे आई।
केके मै सौपो अन्धन और सर्व धन भइया।
केके सौंपो शहर बनारस नेवते तोहरे आई।
सासू के सौंपा तू अन्धन और सर्व धन बहिनी।
ननदो के शहर बनारस नेवते आया।

आइतो है बागिया के कोने तब भौजी हनैनी केवाड़िया ननदिया हमरी आवै।
भल कइलू ए भउजी भल कइलू हनैलू केवाड़िया।
भउजी खिड़की से देखब तोर बियहवा घुमरि घर जाइब।
केहू डारै दुई चार केहू डारै दस पांच।
अरे मोरी ननदी डारैनी सवा डेढ़ भले हो ननदो अइनी।
केहू बतावाला छूछे छूछे।
अरे मोरी ननदो बतावै धेनू गइया।

are pāpā hamare dihai haradiyā tau bhaiyā mor bolāvai.
bahinī hamare nevate tūhī āyā.
keke mai saupo mai anḍhan bhaiyā.
keke saupo hāthi mahāvat nevate tohare āi.
keke mai saupo anḍhan auro sarva ḍhan bhaiyā.
keke saupo shāhar Banāras nevate tohare āi.
sāsū ke soupā tū anḍhan aur sarva ḍhan bahinī.
nanado ke shāhar Banāras nevate āyā.
āino hai bāgiyā ke kone tab bhaujī hanainī kevāḍiyā nanadiyā hamarī āvai.
bhal kailū e bhaujī bhal kailū hanailū kevāḍiyā.
bhaujī khiḍkī se dekhav tor biyahavā ghumari ghar jāib.
kehū ḍārai dui chār kehū dārai das pañch.
are morī nanadī ḍārainī savā ḍerh bhale ho nanado ainī.
kehū batāvālā chūche chūche.
are morī nanado batāvai dhenū gaiyā.

アレ、パーパー（父）よ、私のウコンを配ってください。私のバイヤー（兄弟）を呼んでください。
私のバヒニー（姉妹）よ、ネオターをしに、あなたが来てください。
誰々に与えますか。私のお金（ルピーとパイサ）を。バイヤーよ。
誰々に与えますか。象のドライバーを。ネオターをしに、あなたが来ます。
誰々に与えますか。私のお金を。そして、すべての財産を、バイヤーよ。
誰々に与えますか。バナラス市を。ネオターをしに、あなたが来ます。
サースー（姑）に与えますか、あなたのお金を。そして、すべての財産を、バヒニーよ。
ナナド（義理の姉妹）よ。バナラス市を。ネオターをしに、あなたが来てください。
（義理の姉妹が）来ました、庭のコーナーに。そのとき、バウジー（兄嫁）が閉めました、扉を。私のナナディア（義理の姉妹）が来ました。
何ていいことをしました、バウジーよ。何ていいことをしました、扉を閉めました。
バウジーが窓から見ます、あなたの結婚を。戻って家に行きます。

誰が与えますか、2、4（ルピー）を。誰が与えますか、10、5（ルピー）を。

アレ、私のナナディ（義理の妹）よ。125、150（ルピー）を与えたので、ナナド（義理の姉妹）が来ました。

誰が与えますか。何も与えません。

アレ、私のナナドに、与えます。牝牛を与えます。

(6) チュンマー

5人の少女が、交代で、花嫁あるいは花婿の身体の5か所に、ウコンをつけて祝福する。そのさいに、既婚女性たちが、その場にいる家族や親戚、近所の少女たちの名前を、即興で入れて、事例23のような民謡をうたう。名前を呼ばれた少女は、花嫁や花婿にウコンをつけて祝福する。

(事例23)

चूमै जे बैठैनी कवन देई बाबारे कवने राम कै ढेरि।

चूमै जे बैठैनी मोनिका देई बाबारे फुरदुल राम कै ढेरि।

चूमै जे चलैनी काजल देई घनशयाम राम कै ढेरि।

हिकभर चूमैहू काजल देई मुखभर देऊ अशीश।

चूमै बैठैनी नीशू देई बाबारे अरविंद राम कै ढेरि।

chūmai je baiṭhainī kavan dei bābāre kavane rām kai ḍheri.

chūmai je baiṭhainī Monikā dei bābāre Furdul rām kai ḍheri.

chūmai je chalaiṇī Kājal dei bābāre Ghanshyām rām kai ḍheri.

hikbhar chūmaiḥū Kājal dei mukhabhar deu ashish.

chūmai baiṭhainī Nīshū dei bābāre Arvind rām kai ḍheri.

チュンマーのために、座っています、どんな娘が。誰の娘ですか。

チュンマーのために、座っています、モニカが。フルドゥル・ラームの娘です。

チュンマーのために、座っています、カージャルが。ガンシャーム・ラームの娘です。

すべてチュンマーしてください。カージャルよ。口で言って、祝福を与えます。

チュンマーのために、座っています、ニシューが。アルビンド・ラームの娘です。

(7) ドオンディ・バーンダナー

各家庭に、油や、炒めた小麦粉、黒砂糖を配る。近所の人たちが、入れ物をもって、マンドアップに集まる。今回の婚姻儀礼では、チュンマーと並行しておこなわれていたため、ドオンディ・バーンダナーのさいにも、チュンマーの民謡が繰り返しうたわれていた。

(8) イムリー・ゴータナー

母親の兄弟 (māmā) が、花嫁、あるいは花婿に、イムリーの葉を 5 回、口に噛ませる。今回の婚姻儀礼では、チュンマーと並行しておこなわれていたため、イムリー・ゴータナーのさいにも、チュンマーの民謡が繰り返すうたわれていた。

(9) シル・ポナー

夜に、花嫁あるいは花婿の父親と母親が布をかぶり、小麦粉を練ったパンであるチャパティーをつくる。これは、風の神と水の神に結婚の成功を願うとともに、祖先を婚姻儀礼に招待する意味をもつ。そのさいに、事例24のように、具体的に、亡くなった先祖の名前を入れて、既婚女性が歌をうたう。デオターとネオターなど、韻を踏んでいるのが、北インドの民俗歌謡の大きな特徴である。

(事例24)

पाँच ही पान नौ देवता सरगे जे बाटै लालसा रामा औरो मंगरू रामा ओनहू कै नेवता आज ।
पाँच ही पान नौ देवता सरगे जे बाटै औरो कवन रामा ओनहू कै नेवता आज सिलिया पोहिय लै जाय ।
सरगे जे बाटै झिनकू राम औरो अधार रामा औरो त्रीबेनी राम ओनहू कै नेवता आज आपन सिलिया पोहिय लै जाय ।
सरगे जे बाटै जैकरन बाबा औरो दुखी बाबा औरो सोखा बाबा आपन सिलिया पोहिय लै जाय ।
पंच ही पान नौ देवता सरगे जे बाटै लोदई बाबा औरो झिनकू बाबा ओनहू कै नेवता आपन सिलिया पोहिय लै जाय ।
सरगे जे बाटै जैकरन बाबा औरो बलई बाबा औरो दुखी बाबा आपन सिलिया पोहिय लै जाय ।
सरगे जे बाटै घनई राम औरो रूपा रामा आपन सिलिया पोहिय लै जाय ।
सरगे जे बाटै कवन रामा आपन सिलिहा पोहिय लै जाय।
भूलल बिसरल आगि कै जरल पानी कै बूडल कीरा कै काटल बिच्छी कै मारल सिलिया पोहिय लै जाय।
चुलिया के पिछवा उलुका देई औरो जुहुका देई ओनहू कै नेवता ।
पाँच ही पान नौ देवता ओनहू कै नेवता अगडल पछडल भुलायल सबही कै नेवता ।

pāñch hī pān nau devatā sarage je bāṭai Lālsā rāmā auro Mangarū rāmā onahū kai nevatā āj.
pāñch hī pān nau devatā sarage je bāṭai auro kavan rāmā onahū kai nevatā āj siliyā pohiy lai jāy.
sarage je bāṭai Jhinkū rām auro Aḍhār rāmā auro Trībenī rām onahū kai nevatā āj āpan siliyā pohiy lai jāy.
sarage je bāṭai Jaikaran bābā auro Dukhī bābā auro Sokhā bābā āpan siliyā pohiy lai jāy.
pāñch hī pān nau devatā sarage je bāṭai Lodaī bābā auro Jhinkū bābā onahū kai navatā āpan siliyā pohiy lai jāy.
sarage je bāṭai Jaikaran bābā auro Balāī bābā auro Dukhī bābā āpan siliyā pohiy lai jāy.
sarage je bāṭai Gunaī rām auro Rūpā rāmā āpan siliyā pohiy lai jāy.
sarage je bāṭai kavan rāmā āpan siliyā pohiy lai jāy.

bhūlal bisaral āgi kai jaral pānī kai būḍal kīrā kai kāṭal bicchī kai māral siliyā pohiy lai jāy.
chuliyā ke pichavā Ulukā deī auro Juhukā deī onahū kai nevatā.
pāñch hī pān nau devatā onahū kai nevatā agaḍal pachaḍal bhulāyal sabahī kai nevatā.

5つのパーン（ビンロウジュの実を使った嗜好品）、9人の神様、天国にすわっているラルサー・ラーム（花嫁サンギータの祖父）、そして、マンガルー・ラーム（花嫁サンギータの祖父の兄弟）、彼らのネオターをします、今日は。

5つのパーン、9人の神様、天国にすわっている誰かのラーム、彼らのネオターをします、今日は。シル・ポナーをします。

天国にすわっているジンクー・ラーム（花嫁サンギータの叔父）と、アダル・ラーム（花嫁サンギータの父）、そしてトリベニ・ラーム（花嫁サンギータの叔父）、彼らのネオターをします、今日は。あなたのシル・ポナーをします。

天国にすわっているジャイカラン・バーバー（近所の男性パラートの祖父）と、ドッキー・バーバー（近所の男性ラームパリートの父）、そして、ソーカ・バーバー（近所の男性ラームラカンの兄弟）。あなたのシル・ポナーをします。

5つのパーン、9人の神様、天国にすわっているロダイ・バーバー、そして、ジンクー・バーバー、彼らのネオターをします、今日は。あなたのシル・ポナーをします。

天国にすわっているジャイカラン・バーバーと、バライ・バーバー（近所の男性ラームジートの父）、そして、ドッキー・バーバー、あなたのシル・ポナーをします。

天国にすわっているグナイ・ラーム（近所の男性ラームパリートの兄）と、そして、ルーパー・ラーム（近所の男性ラームラカンの兄弟）、あなたのシル・ポナーをします。

天国にすわっている誰かのラーム、あなたのシル・ポナーをします。

忘れた人たち、火でやけどした人、水でおぼれた人、へビにかまれた人、サソリで刺されて亡くなった人、シル・ポナーをします。

炉の後ろにいるウルカー・デーイー（炉の神）、そして、ジュフカー・デーイー（炉の神）、彼らのネオターをします、今日は。

5つのパーン、9人の神様、彼らのネオターをします、今日は。前にも後ろにも（後にも先にも）忘れた人たち、すべてネオターします。

おわりに

本稿では、6日目におこなわれる儀礼と民俗歌謡を記述してきた。6日目は、さまざまな儀礼がおこなわれるため、婚姻儀礼がおこなわれる花嫁あるいは花婿の家では、その準備に忙しい。1990年代や2000年代に調査した婚姻儀礼においては、儀礼にあわせて1つずつ対応する民俗歌謡がうたわれることが多かった。だが、近年では、婚姻儀礼の規模の拡大や参加者の増加などにより、準備をする女性の忙しさは以前より増しており、そのため、同時並行で儀礼がおこなわれるものもあり、必ず

しも、対応する民俗歌謡がうたわれなくなっている。今回は、花嫁、花婿が揃っておこなわれる7日目の儀礼と民俗歌謡について述べていきたい。

〈参考文献〉

八木祐子

- 1990 「婚姻儀礼と女性の歌—北インドの村から—」 八木祐子編『女性と音楽』（民族音楽叢書 第2巻）57-76頁 東京書籍
- 1991 「儀礼・職能カースト・女性—北インド農村における通過儀礼と吉・凶の観念—『民族学研究』56巻2号 181-208頁
- 1992 「女性・歌・パフォーマンス—北インド農村の婚姻儀礼をめぐる一試論—」『南アジア研究』第4号 59-78頁
- 1999 「結婚・家族・女性—北インド農村社会の変容—」窪田幸子・八木祐子編『社会変容と女性：ジェンダーの文化人類学』ナカニシヤ出版 36-65頁
- 2010 「チャイからコーラへ—北インド農村における婚姻儀礼の変化—」『南アジアの社会を読み解く』鈴木正崇編 慶応大学出版会 85-107頁
- 2015 「アザムガルの民俗歌謡—婚姻儀礼と女性の歌—」『多民族社会における宗教と文化』No.19 宮城学院女子大学キリスト教文化研究所 37-52頁
- 2020 「ボージプリー文化圏の婚姻儀礼と民俗歌謡（その1）」『多民族社会における宗教と文化』No.23 宮城学院女子大学キリスト教文化研究所 3-17頁
- 2021a 「北インド社会における女性の儀礼と口頭伝承—婚姻儀礼を中心に—」江口久編 八木祐子・手塚恵子責任編集『儀礼と口頭伝承』風響社 133-152頁
- 2021b 「ボージプリー文化圏の婚姻儀礼と民俗歌謡（その2）」『多民族社会における宗教と文化』No.23 宮城学院女子大学キリスト教文化研究所 3-15頁

〈参考資料〉

（写真1～2）写真1は、カルヤーン・プージャーをおこなっているところである。左側に司祭、奥に花嫁の母親が座っている。そのさいに、事例18の民謡を、女性たちがうたう。写真2は、結婚式場の真ん中に、結婚の柱と呼ばれるハリスをたてるハリス・ガーダナーをおこなっているところである。司祭、花嫁、3人の親族の5人でハリスを持って、立てている。

〈写真1〉



〈写真2〉



（写真3～4）写真3は、カラーシュ・ゴータナーで、右側の女性が土の壺に、牛糞、コメ、小麦をつけているところである。そのさいに、事例19、20の民謡を女性たちがうたう。写真4は、既婚女性5人が、杵でコメを突き、祖先の食事をつくるクトナーをおこなっている様子である。祖先の名前を入れた事例21、22の民謡を、既婚女性たちがうたう。

〈写真3〉



〈写真4〉



（写真5～6）写真5は、チュンマーをおこなっているところである。5人の少女が、花嫁の身体の肩や腕、膝など5か所に、ウコンをつけて祝福する、そのさいに、事例23のような少女の名前を入れた民謡を、既婚女性がうたう。写真6は、村の各家庭に、油や黒砂糖、小麦粉を配るドオンディ・バーンダナーの様子である。花嫁の甥が、近所の女性に小麦粉を配っている。

〈写真5〉



〈写真6〉



（写真7～8）写真7は、布をかぶって、小さなチャパティーをつくり、婚姻儀礼に祖先を招待するシル・ポナーをおこなっている様子である。そのさいに、事例24の民謡が既婚女性によってうたわれる。写真8は、シル・ポナーが終わり、布をとったところである。花嫁の父親と母親がおこなう場合が多いが、今回の婚姻儀礼では、花嫁の父親が亡くなっているため、花嫁の父の兄の次男とその嫁がかわりにおこなった。

〈写真7〉



〈写真8〉

